

気軽に話してみませんか

カウンセリング相談のご案内

話すことの効用

宇部地区担当カウンセラー 細川 理香

コロナ禍で制限されたものの一つが、対面で話すことです。食事を囲んでの会話に限らず、何気ない立ち話や挨拶が日常に潤いを与えていたと改めて気づくことになりました。気の進まない会や棘のある言葉を聞くことが減った良さはありますが、対話の減少は私達の心に大きな影響を与えていると考えています。一方、オンラインでコミュニケーションをとることは増えました。設定がうまく行かなかったり、話すタイミングが難しかったり、ごちなさはありますが、方法は違っても人と繋がる感覚は共通のもので、ダイバーシティ推進室のカウンセリング相談は、対面とオンライン、どちらにも対応しています。カウンセリングという、敷居が高い印象があるかもしれませんが、気の置けない友人との雑談に心がほぐれる経験をしたことはないでしょうか。その延長線上にカウンセリングでの対話があると思っています。「こんな話でいいんですか?」と言われることがあります。どんな話でもOKです。気安い雑談から、誰にでも言えないモヤモヤもお聴きします。お気軽にご利用ください。

カウンセリング相談でできること

山口地区担当カウンセラー 桜井 恵

ダイバーシティ推進室のカウンセリング相談では、「お話を聴き、一緒に考えていく(気がかりや解決したいことを話し振り返る時間を持つ)」、「箱庭」(ミニチュアを砂箱の中に置いて、自己表現する)、「自己分析の試み」(質問紙などを使って、自己理解を深める)、「心身のリフレッシュ」(自分本来の持ち味が発揮できるよう、リラックスする)など、それぞれのご希望に添って対応させていただきます。医療機関等のカウンセリングではなく、職場内で「身近で気軽に」利用できる点を生かせるよう、予防的な意味でのカウンセリングも視野に入れ、日々ご利用いただいています。相談場所や方法、内容、お問い合わせについての守秘にも配慮しています。「モヤモヤが解消されて、研究や仕事に集中しやすくなった」、「自分の傾向を見つめ直すことができ、生活や仕事に活用できた」、「興味があることをゆっくり話して、リフレッシュになっている」などのお声もいただき、一緒に共有しながら、気づきや発見に出会える時間がとても貴重でありがたく感じています。新しいチャレンジも含めて、ご希望に添えるかどうか検討しながら安全かつ柔軟に対応していけるよう考えています。まずは、お気軽にご連絡いただけたら幸いです。

自己理解
「深める」

自己表現
「気づく」

リフレッシュ
& リラックス
「ゆるむ」

探究・内省
「発見する」

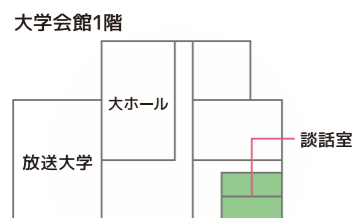
整理・調整
「軽くなる」

Q どんなことを話したらいい?

A 仕事のこと、自分自身のこと、人間関係、パートナーシップ、育児、介護、家庭生活、ワーク・ライフ・バランス、今後のこと、興味があること、...など、どんなことでもかまいません。

吉田キャンパス

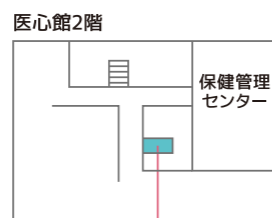
大学会館1階 談話室



▲玄関
毎週月曜日/第2・4火曜日

小串キャンパス

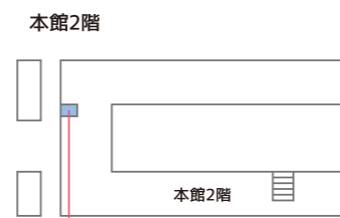
医心館2階 保健管理センター
カウンセリングルーム



▲玄関
毎週木曜日

常盤キャンパス

本館2階
ダイバーシティ推進室分室



▲玄関
毎週火曜日

申込方法

(原則予約制)

専任カウンセラー直通メールアドレスに **お名前、所属、連絡先、面接希望日時** を記入のうえ、メールでお申し込みください。カウンセラーより折り返し連絡を行い、日時を決定します。

カウンセラー直通

山口地区: yd-sodan@yamaguchi-u.ac.jp 宇部地区: ud-sodan@yamaguchi-u.ac.jp

ダイバーシティ推進室ホームページ カウンセリング相談のコーナーから、フォームを利用してメールを送ることも可能です。



ダイバーシティの
必要性

ダイバーシティとは「多様性」を意味する言葉です。日本において、1985年の「男女雇用機会均等法」を契機に日本での推進が動き始めました。現在では、男女の人権の尊重を起点とし、高齢者や外国人、障害者など様々な人材の活躍のための言葉として浸透しています。

ダイバーシティが推進される背景としては、少子高齢化社会、価値観の多様化、ビジネスのグローバル化などが挙げられます。ダイバーシティを受容することで、新しい視点からのイノベーション、競争力の強化などの実現が期待されます。

山口大学では、大学を構成する全てのひとと、地域の人々が、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・共奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」を目指しています。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

CONTENTS	特集: 対談	ダイバーシティ(多様性)の中で進化し続ける女性研究者	p.2-4
	制度紹介	山口大学は「保育三本柱」で教職員のワーク・ライフ・バランスを支援しています	p.5
	推進室の取組	活動報告	p.6-7
	制度紹介	カウンセリング相談のご案内	p.8



山口大学ダイバーシティ推進室 ニュースレター vol.02

編集・発行 山口大学ダイバーシティ推進室

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1 (事務局 1号館 3F) TEL 083-933-5997 / FAX 083-933-5992

E-mail ydpo@yamaguchi-u.ac.jp URL <https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~diversity/>





そ研究者になる前は、自分で研究をしたいと思っても出来ず、論文を出しても信用もないし、採択もされません。一度道から外れると、本当に難しい、私は死ぬほど苦労して、やっとの思いで研究者になりました。ただ、本当はそれではいけないと思うんです。ダイバーシティの醍醐味はいろいろな経験をたくさんして、さらにそこから追求して本物にしていくことが必要なはずなのに、社会がそうっていないので、一度、道から外れた研究者が研究の道に戻ってくることは、大変厳しいです。これからは、道を外れても、いろんな経験を積んだ、様々な視野を持った研究者が研究出来る社会になったらいいなと思っています。

鍋山: 大学内にいろいろな研究者がいる、分野の違いだけでなく、プライベートも、研究職に就いた道筋も本当に様々で、だからこそつながっていくことで、思いがけない成果が出せたり、面白い研究が出来たりするんですね。大学の研究者って、お金をもらって研究が出来る、そして、そこに集ってくる学生たちに自分の研究の面白さが伝わって、学生の意識が変わったり、教育の醍醐味を味わえたり、すごく幸せなポジションだし、良い仕事だと思っています。

「ダイバーシティ」は面倒くさい？

鍋山: 先ほど、共同研究では専門性やバックグラウンド、価値観や共通言語の違いから難しさを感じるというお話がありましたが、まさに「ダイバーシティ」って面倒臭いんですよ。同じ分野で、共通言語だけで語っていたところが、いろいろな価値観やバックグラウンドの人達と一緒に何かをしていこうとすると、うかつなことを言えないし、相手のことを本当に考えないといけないし、面倒くさい、でも、その先に今までに見たことのない景色が広がっていると思うので、面倒くさくても、そうやって出来るものを楽しみながら、連携をつなげていって欲しいと感じています。

女性研究者は、仕事として研究というのではなく、研究をしたいと思ってやっていたら、研究者になっていたという人が多いように感じています。だからこそ、大変な面はあっても、すごく面白そうに、楽しそうに研究している方が多くて、そんな女性研究者が生き生きと研究している姿を発信していきたいと思っています。

小柴: 快適性とか感性の研究をしていて感じていることがあるんですが、人はある程度プレークというか、抑圧されている方が進化学的にも向上することが多く、ダイバーシティの面倒くささが、エネルギー源になるかもしれないかと思っています。

鍋山: これからは積極的にいろいろなつながりができるように取り組みたいですね。

私たち大学の教員は、個人で仕事をするのが多く、研究室に閉じこもりがちです。女性研究者の数は少ないので、なおさら、知り合いになったり、話したりするきっかけもなく、個人個人が忙しくやっている状態です。

今後は、女性研究者同士で話をする機会があるのは良いと思いませんか。

島田: そういう雑談も出来る場所で、コミュニケーション

を取れる機会があることは、すごくプラスになると思います。

小柴: 研究者の皆さんは大変忙しくて、なかなか時間が取れないと思うんですけど、ダイバーシティ=多様性が進化を招くということは、はっきり証明されているので、多様な人たちがコミュニケーションをとることはやっぱり面倒くさいんだけど、大切だと思いますし、やることの価値を理解してもらって、積極的にコミュニケーションが取れる機会を提供して欲しいです。

鍋山: 本当ですね。今日は皆さんのお話を伺って、私自身、ダイバーシティ推進室での取り組みについて、勇気をもらえました。プラスのエネルギーをたくさんもらえたので、この先も頑張っていけます。

これからの山口大学でのダイバーシティについて

鍋山: この先、山口大学に欲しいダイバーシティに関する支援や企画、ご要望などはあります。

島田: 女性研究者を増やすという意味では、やはり子育て支援が必要だと思います。特に、保育園に関する支援です。私が4年前に着任した時、2月に採用が決まって、4月には保育園に預けないといけない、さらに、子供2人を一緒に保育園に預けたいとなると、かなりハードルが高くて、2月だと一般の保育園の入園募集が既に終わっていて、その中で探さないといけないというのは、とても大変でした。この段階で、心が折れるお母さんは多いと思います。

また、出来るだけ研究時間を確保するために、長時間預けることができる施設であったり、土日にも預けられるとか、希望の条件に合った保育園に入れるということはすごく難しく、保育園の支援があればいいなと思います。

鍋山: お子さんを抱えていらっしゃる、保育を誰かがやってくれないと働けませんので、保育支援は絶対条件です。

よね。ダイバーシティ推進室でも一緒に考えていきたいと

思います。

永鷲: 敷地内に保育園があると良いだろうと思います。

鍋山: かなり前に、学内に保育園を作るという話もありました。実現に向けて調査したところ、山口は幼児の待機児童はそんなに多くなく、学童保育の待機児童が増えている状態です。そのため、長期休暇中の学童保育を実施しているんですが、今後も状況を見ながら考えていきたいと思っています。

島田: 今、学童保育「ヤマミィ学級」に預けさせていただいているんですが、いろいろと要望を聞いていただいて助かっています。例えば、保育時間の延長なんですが、必要な研究のために30分の延長をお願いしたところ、快く対応していただけて、そういう風の一つ一つ要望を聞いていただけたらとか、要望は聞けなくても、今後それをどのように解決していくかというような相談が出来るのが、非常に心強くて、ありがたいと思いました。サポートしていただいた分以上に、頑張ろうという気持ちになります。

鍋山: ありがとうございます。ルールが決まっています、はみ出したらダメだというのは、人間じゃなくてもコンピューターでも出来ることだと思っています。そうではなくて、ルールはこうで、何か要望があった時には、どうやったら出来るかというのを考えるのが人間の仕事だと思っているので、ダイバーシティ推進室では、一つ一つ個別に慎重に対応しています。今後もそういう要望をいただければありがたいです。

小柴: 私は、学部を越えるダイバーシティがもっとやりたいと思っているし、やって欲しいなと思っています。その実現のためには協力させていただきます。もう一つは、精神的な相談室、居場所作りをしたいと思っています。特に、理系のエンジニアの人たちは、人間的な感覚を排除して、数字の世界や、物質の世界に追い込まれるような専門領域というのがある、追い込まれた人た

の居場所を作りたいと努力しているところです。専門家や臨床心理士さんに見ていただくのも非常に良いんですが、そこまですぐ前の受け皿として、いろいろな多様性、学生側のダイバーシティを作るべきだと思っています。

鍋山: ダイバーシティ推進というと、教職員メインのように感じられるんですが、もちろん学生も入って、ダイバーシティ・キャンパスを作ることだと思っています。

永鷲: 学生を支援するという意味では、私の所属する理学部の中でも、女子学生だけではなく、男子学生も同じように駆け込める所が必要だと感じています。相談室とはちょっと違うんですね。理学部の先生方も圧倒的に男性が多いので、学生はどこにも言えず、私のところに駆け込んでくる子がいます。少し相談に乗ると元気があって、翌日から普通に出来るので、相談相手がいらないことで来れなくなってしまう子がいるんだろうなと思うと、切ないですね。

鍋山: ダイバーシティ推進室でもカウンセラーさんがいらっしゃると思いますが、専門家もいるし、身近なところで相談もできるという土壌を作るのも大切ですね。

カウンセラーによる相談制度もあるけど、私たち教員が

学生の細かい面倒をみなくていいというのではなくて、教員と学生の関わりは何かを教えるという以前に、もっと基盤となる人間関係が大事だと思っています。

相談体制については、複数整備して、選べるのが必要です。

永鷲: 教員として相談を受けた時に、今度はその教員が相談する場所が必要だと思います。学生から相談を受けて、アドバイスはするけど、果たしてこの対応でいいのか悩む時があります。そういう時に確認出来たり、ちょっとまずそうだからフォローして欲しいという相談が出来る、教員側も相談を受けやすいかなと思います。

鍋山: やっぱりそういう時は、ダイバーシティ推進室にぜひ連絡をというつもりでやっている、そういう存在になりたいと思います。

また、悩んだ時に、カウンセラーさんに話しを聞いてもらって、個人的に悩みを解決するのもありますが、同じような問題にぶつかっている人が複数いる場合には、それは、制度的に問題があるのかもしれない。ダイバーシティ推進室は、その部分を調整する役目の部署だと思っているので、今後もぜひお気軽にご意見なども聞かせてください。



山口大学は「保育三本柱」で

教職員のワーク・ライフ・バランスを支援しています



ヤマミィ学級
平成27年度より実施中

一時保育

病児保育
平成28年度より実施中

【一時保育サービスを開始します】

山口大学では、教職員の仕事と育児の両立支援として、未就学児の一時預かり保育を実施します。学内の保育実施場所で、大学が契約した保育団体から派遣される保育者により、保育を受けることができます。

対象期間：2022年1月25日～2023年3月31日

利用登録完了まで時間を要しますので、まずは利用登録をお願いします。
※登録が完了するまで、利用予約はできません。

詳しい利用案内は [コチラ](#) ➔



ヤマミィ学級
学内学童保育

小学校の長期休業中(夏・冬・春休み)に、教職員等のお子様を対象として、山口地区(吉田キャンパス)、宇部地区(小串キャンパス)で学内学童保育「ヤマミィ学級」を開催しています。

保育中に、教員の研究や多様な学生活動、職員の知識や特技に関連したプログラムを実施しています。

病児保育
病児保育施設等利用助成制度

小学3年生までの子を養育する教職員が、病児又は病後児の保育施設に預ける場合に係る利用料金の一部を補助する制度です。※申請対象の条件あり

利用者の声

子供が熱を出しても仕事を休めないことも多く、病児保育に度々お世話になっています。利用回数が増えると多くの費用がかかるため、利用料金の一部を助成していただき、大変助かっています。

子供の看護に関する特別休暇と病児保育を利用した際の助成制度が整備されており、子育てと仕事の両立について応援されていると感じています。

医学部 教員 事務職員

キックオフシンポジウム

シンポジウム「持続可能な地方創生を大学と共に実現するには？」を開催しました

2021年7月12日にキックオフシンポジウム「持続可能な地方創生を大学と共に実現するには？」を開催しました。

シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の影響が先行き不透明な中、参加者の安全と感染防止を最優先に考え、会場とオンライン配信を併用したハイブリット開催とし、学内のみならず行政や企業、高等教育機関といった学外の方々にも多くご参加いただくことができました。

シンポジウムでは、岡学長の挨拶に続き、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長 三輪善英様より、国内の女性活躍推進に関する動向や女性研究者の現状、本事業を促進する意義についてご説明いただいた後、ダイバーシティ推進室長である鍋山副学長から、本事業に対する取り組みや成果について報告しました。

基調講演では、筑波大学名誉教授の吉武博通先生より「持続可能な大学・地域創生とダイバーシティ」と題して、統計数字から見てくる日本社会の問題や、大学が抱える構造的課題、我が国における男女共同参画の現状などを読み解いていただき、そして、個人や組織、地方が共に成長するために必要な視点やダイバーシティを尊重する大切さについて、組織や立場が異なる参加者それぞれに分かりやすく、ご講演いただきました。

本シンポジウムでは、「ダイバーシティに取り組む意義を理解できた」、「古い職場意識を打破することがダイバーシティ環境を創造すると強く認識した」といったコメントをいただきました。また、ダイバーシティの重要性を呼びかけると共に、理解を深め、山口県の女性活躍につながる活動を広く知っていただく良い機会となり、今後の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業における課題等を共有できた有意義な会となりました。



写真上/岡学長の挨拶
写真中/鍋山副学長による事業説明や成果報告
写真下/筑波大学名誉教授 吉武博通氏による講演

AI研究セミナー

AI×研究データ マatchingイベントを開催しました



2021年7月22日に「AI×研究データマatchingイベント-AIと研究データの出会いをDAIラボ(Diversity×AI)でー」をKDDI 維新ホールで開催しました。

このイベントは二部構成で、第一部のセミナーでは、AI技術の活用についての理解促進を目的とし、第二部のマatchingでは、組織、分野、立場の枠を越えて多様な研究者が集い、アイデアを交換・共創することで、新たな研究活動の展開や、異分野融合研究チームの形成を目指したものです。特にAI研究者と他分野研究者のマatchingを促進するために、相談ブースを設け、山口大学、山陽小野田市立山口東京理科大学、宇部工業高等専門学校が連携し、研究者を紹介するほか、本学情報・データ科学教育センター所属のAI研究者によるAIに関するアドバイスも行いました。

セミナーでは、本学の教育学生・情報化推進担当の松野理事より「AIのできること～山口大学及び県内企業の事例から～」と題して、AIの可能性や、具体的な事例などをご説明いただきました。そして、AI技術を研究に取り入れた事例発表として、教育学部の春日由美准教授と、共同獣医学部の三宅准教授に登壇いただき、AIを取り入れながら様々な分野の研究者が参加することで、新たな発見やより厚みのある研究・発見につながるという事例を示していただきました。

マatchingイベントでは、共同研究に関する相談のほか、自身の研究にはどのようなAI技術を組み込むことができるのか、といったさまざまな相談が寄せられ、会場でマatching成立や解決したのもや、現在進行形でマatchingを進めているものもあります。

今回のイベントには、山口大学の研究者や学生だけでなく、県内の高等教育機関や企業、行政など幅広い分野からご参加いただき「AI、IoTや、デー

ラーニングといった、分かれる様で分からない用語から説明頂き、有意義だった」、「具体的な自分の課題を持ち寄ることで、中味のある交流になった」といった感想が寄せられました。

本イベントでは、研究データにAI技術を適用することで広がる可能性について、実際の取組事例を交えながら考えるとともに、研究者同士が直接やり取りできる有意義な機会となりました。ダイバーシティ推進室では、今後も、研究の活性化や効率化、共同研究の促進を目指して活動をしていきます。



写真左上/司会の山根副室長 写真右上/教育学部 春日准教授 写真中左/共同獣医学部 三宅准教授 写真中右/教育学生 情報化推進担当 松野理事 写真左下/マatching相談会の様子

介護セミナー

介護相談トークセッション「仕事と介護の両立のために」オンラインで開催しました

山口大学では、教職員の仕事と介護の両立支援として、NPO法人 海を越えるケアの手(シーケア)と法人契約を結んでおり、親の生活や介護についての不安を解消するために無料相談などのサービスを利用することができます。その取り組みの一環として、2021年9月24日に介護相談トークセッション「仕事と介護の両立のために」をオンラインにて開催しました。

本セミナーでは、教職員の皆さんからの事前に寄せられた質問に沿って、ダイバーシティ推進担当の鍋山副学長がファシリテーターとなり、シーケア所属の介護専門職である安喰氏と対話する形式で進めていきました。仕事と介護の両立においては、各家庭によって様々な課題があり、質問内容も多岐にわたりましたが、安喰氏から一つ一つ丁寧に回答をいただくことができました。

具体的には、遠距離介護で利用できるサービス・便利グッズの紹介から、ケース毎の親との寄り添い方、ケアマネージャーとの関わり方、介護制度・保険に至るまで幅広い内容となりました。

参加者からは、「介護の問題は、各家庭環境、家族関係によって状況が異なるので、こういったセミナーは、初期段階で聞いておく方が良かった」、「親が老いていく現実立ち向かう心構えができたような気がする」、「介護とは親子関係を再構築していく期間なのだなという印象を持った」等、多くの感想を頂きました。

今後も高齢化が進み、仕事と介護の両立問題はますます身近なものになります。不安や心配等を抱え込まず、いつでも気軽に相談いただければと思います。



写真 /シーケア シニアアドバイザー 安喰真雄氏(社会福祉士・介護支援専門員)と 鍋山副学長によるトークセッション

ご両親の介護に関するあらゆるご相談について相談窓口にてお受けします。(大学名、法人ID番号をお伝えください) 介護に関するお困り事や悩み事は一人で悩まず、いつでもシーケアへご相談ください。

シーケアの相談窓口
☎ 03-3249-7231

詳しいサービス内容や法人IDはこちらからご確認ください▶

ilma 活動報告

すべての人が尊重され自分らしく生きることができる。そんな社会を、私たち自身が創っていく。

ilmaとは? 山口大学学生団体。SOGIやLGBTへの理解を深めるとともに、性的マイノリティの当事者が山口大学や社会のあらゆる場所において安心して生活できることを目指して、令和元年発足した。

近年、LGBTをはじめとする性的マイノリティに対する偏見や差別をなくし、誰もが自分の性的指向・性自認を尊重され、自分らしく生きることのできる社会をつかっていこうという動きが全国的に広がっています。山口県でも、令和3年9月より、宇部市にて県内初のパートナーシップ宣誓制度が導入されました。

こうした中、山口大学 ilma においても、様々な方法でLGBTQ+に関する理解促進活動を行っています。主な理解促進活動として、SNSでの情報発信や大学内でのイベントがあります。SNSでは、LGBTQ+の基礎知識や現状、日々の活動報告などを発信しています。

大学内でのイベントでは、「LGBTってなに?」「お母さんが2人ってダメ?」をテーマに掲げ、LGBTQ+に関するディスカッションを設けたイベントを開催しました。参加者からは、「セクシャルマイノリティに対する理解が深まる内容でも良かった」、「今後の自分自身の考え方の参考にしていきたい」などの感想が寄せられました。私たち自身もイベントを通じて様々な方々と意見交換をすることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

山口大学 ilmaは、こうしたイベントの開催やSNSでの情報発信をするために、日々の活動ではLGBTQ+に関する知識を身に付ける学習会やイベントに関する会議などを行っています。今後も、LGBTQ+についての理解促進活動として、LGBTQ+の基礎知識はもちろん、「自分らしく生きることの大切さ」や「知らないことを知ることの重要性」について多くの人に伝えていきたいと考えています。そして、「すべての人が尊重され、自分らしく生きることのできる社会」を私たち自身が創っていきます。



写真上/LGBTQ+についてイベントを開催。学び、意見交換することで理解を深める。写真下/ilmaのメンバー。SNSで情報発信しているのぜひご覧ください!

